

# 担い手通信

vol. 05

## 先進事例 情報

Advanced case information

高まる国産需要に応える 農研機構

### 新品種「きはだもち」多収もち麦10ルアー673キロ

農研機構・次世代作物開発研究センターは11月11日、多収で水溶性食物繊維のβ-グルカンが多い、もち性大麦(もち麦)の新品種「きはだもち」を開発したと発表しました。六条大麦で栽培適地は関東から東海地域です。栽培しやすく、千葉県での試験栽培では昨年、収量が10<sup>7</sup>当たり673<sup>キ</sup>でした。

もち麦は、β-グルカンの健康機能性に注目が集まり、消費者の人氣を集めています。需要に比べて国産が少なく、同機構によると「8、9割が輸入」といいます。国産志向に配慮されるもち麦が求められています。

「きはだもち」は、多収のうるち性品種「シルキースノウ」を母に、もち性品種「Azhuu(アズール)」を交配。できたF<sub>1</sub>に「シルキースノウ」を交配して育成しました。中生品種で、関東で普及しているもち麦「キ

ラリモチ」に比べて出穂期で4日、成熟期で2日遅くなり、耐倒伏性に優れています。オオムギ縮萎縮(しまいしゆく)病に抵抗性がありますが赤かび病には弱いです。穂発芽は起きにくいです。同センターの試験では1<sup>ル</sup>当たりの整粒収量が69<sup>キ</sup>で、「キラリモチ」の42<sup>キ</sup>、「シュンライ」の58・8<sup>キ</sup>を大きく上回ります。精麦の黄色みがやや強く、炊飯後の保温で茶色く変色しやすいですが、柔らかく粘りがあつて食感に優れています。



穂ぞろい期の「きはだもち」は多収が特徴です(農研機構提供)

## 営農技術 ピックアップ

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

### イネごま葉枯病抵抗性品種を選定 遺伝資源の探索

イネごま葉枯病は苗や本田期の葉、穂に発生する糸状菌病害です。いもち病や紋枯病に次いで発生面積が大きく、県内では県育成品種「みえのゆめ」等で問題となっています。さらに、ごま葉枯病菌の生育適温は約30℃と比較的高いことから、気候変動の影響により、今後発生が増加すると予想されます。これまで本病害に対する実用的な抵抗性品種の育成は行われていないことから、農業研

究所では品種の育成につながる遺伝資源を選定するため、国内外のイネ品種の抵抗性を評価しました。

研究所内に設置した抵抗性検定ほ場において国内品種52系統と海外品種55系統の発病程度を評価した結果、海外由来の11品種で強い抵抗性が確認されました。一方、国内品種では抵抗性「強」の品種が認められなかったことから、抵抗性品種の育成には海外遺伝

資源の利用が望ましいと判断しました。

また、これまではごま葉枯病抵抗性と早晩性との関連性を



ごま葉枯病抵抗性品種「IR58」④と罹病性品種「みえのゆめ」⑤の発病程度 (注)2014年の移植後99日に撮影

指摘する報告もありますが、本研究で抵抗性海外品種と罹病性海外品種の早晩性を調べたところ、両者の間で差は認められませんでした。したがって、本研究で選抜された海外品種が持つ抵抗性は早晩性とは無関係に発現すると推察されました。

現在、本研究によって見出した遺伝資源を活用し、ごま葉枯病抵抗性品種の育成を進めています。

お問い合わせ先 伊賀農業研究室 ☎0595-37-0211

## Agriweb

農業経営のお悩みに効くヒントを提供!  
「アグリウェブ」がリニューアルしました



学ぶ  
基礎知識

読む  
コラム・事例集

聞く  
農業一問一答

相談する  
コンサルタントに相談

農業者会員登録アドレス  
会員登録無料!  
携帯からも登録できます



アグリウェブ 検索

### 農業を営むすべての方を応援します! 農業 経営資金

5年  
0.2%  
(変動金利)

※表示金利は2020年1月1日時点のものです。※利子補給・金利引下げ後の当初ご負担金利は0.2%を下回らないように調整されます。※JAバンク保証料助成により、実質保証料が0円になります。

取扱期間  
2019年4月1日~2020年3月31日

●トラクターなど農業機械購入 ●栽培用ハウス・畜舎建設  
●その他農業経営に必要な資金に

### 実質保証料負担

保証料全期間  
全額助成!

0円

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。  
<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>

2020年1月1日現在

